

## 漢字学習のための教室活動「漢字王決定戦」

### —自律学習に結び付けるための漢字学習意欲喚起教材作成—

辻 雅代 (認定 NPO 法人地球学校)

丸山 伊津紀 (認定 NPO 法人地球学校)

押野 成美 (認定 NPO 法人地球学校)

吉田 涼子 (認定 NPO 法人地球学校)

#### 1. 実践内容

2003年から横浜で外国につながる子どもたち対象事業として日本語指導と学習支援のための「地球っ子教室」を運営している。

##### 1.1 対象者

神奈川県・東京都など横浜近郊に住む日本語を母語としない小中学生、高校受験を目指す既卒者が対象であり、2015年度は71名が参加登録し、毎週30名弱が参加している。

##### 1.2 実践の場

地球っ子教室は、毎週土曜日午後1時から3時まで、横浜駅近くの公共施設で、年間36回開催している。また、夏・春の休暇中には2時間14回の教室開催している。

今回の漢字学習のための教室活動「漢字王決定戦」は、10月と3月、年間2回行い、2016年3月5日の実施で17回目となる。10月に行うのは、夏休み以降秋学期に来日する子どもの漢字に対する抵抗感を低くするため、3月には進級進学を前に今一度漢字への関心を喚起するために行っている。

##### 1.3 教室の課題

###### 1.3.1 子どもたちの漢字理解レベル

漢字の形態の違いへの気づきがない、音訓の区別がついていない、漢字の意味は分かって読めない、読むことができても書くことは難しい、など日本語への理解力とのかかわりのほか、その子その子によってさまざまな困難点を有している。

###### 1.3.2 指導上の課題

日本人の子どもも行う、漢字練習帳に書き込む練習のみでは漢字への関心も持てず、当

然ながら書き取りも苦手、ノートにもあいまいな漢字を書き込むこととなる。まずは漢字そのものへ興味を持つこと、日本語で書かれたものを読むには漢字の理解が欠かせないこと、自分の考えを表現するにも漢字の活用が大切であることを、根気よく子どもに接する必要がある。単に書き取りの小テストを繰り返すだけでは進歩に結び付かない。

###### 1.3.3 教室活動の支援方法

参加者の母語は様々であり、学年にかかわらずなく日本語の能力も千差万別のため、学年別・来日時期別のグルプレッスンは難しい。そのため、教室活動「漢字王決定戦」では、学年・日本語力がグループごとに均衡するようにグループ分けをしなければならない。

##### 1.4 実践内容

###### 1.4.1 「漢字王決定戦」に向けての工夫

その年度の教室に参加している子どもたちの理解度に合わせて、様々な切り口で漢字への理解を喚起する問題を独自に作成している。現場の子どもレベルに合わせて問題をその都度作成し、参加した子どもが無関心になったり飽きたりしないように配慮している。

###### 1.4.2 「漢字王決定戦」の問題

漢字の読み書きだけに絞るのではなく、読みにかかわるもの・画数にかかわるもの・意味にかかわるものなど漢字を様々な切り口からとらえて問題を作成している。また、算数・社会・理科などの教科学習にかかわるテーマを絡めた問題も作成している。毎回4問を準備し、一つのジャンルに絞らず、参加する子どものレベルに応じて調整も行っている。

【今までに行った問題例】(一部抜粋)

回	問	タイトル	学習目的				学習形態				競争		ゲ	
			文字	読み表記	熟語	教科語彙	音読	聞く	行動系	手作業	発表	解作用紙		個人
第14回	1	仲間で集まれ	●										○	
第14回	2	二文字しりとり			●								○	○
第14回	3	減災行動		○	○		●						○	○
第14回	4	旗ビンゴ		○		○							○	○
第15回	1	画数シュー	●										○	○
第15回	2	みんながってみ	○	○	○								○	○

1.4.3 「漢字王決定戦」での子どもの様子  
グループ対抗であるため、未習だったり来日直後で日本語力が低かったりしても、グループの仲間で互いに補い合って学習している。また、問題は個人で考えるもの、グループで協力して解くものを織り交ぜ、まだ日本語力の低い子どもには教師が注意して様子を見つつ必要なら指導を行っているため、間違えることへの恥ずかしさや臆病さはあまり見受けられない。普段あまり発言しない子どもでも答えられる場面があるので、むしろ答えられた時のうれしさを体感していると思われる。

2. 教室活動の目標達成度

2.1 子どもの目標達成度

漢字圏・非漢字圏の小学生から1名ずつ特徴的事例を選択し達成度を考察する。その基になるものは、毎週の土曜教室の記録である。入室から現在までの状況を分析する。

2.1.1 漢字圏の小学生(小3~小5)

3年生の秋に入室し、日本語ではなく母語ではあるが当初から辞書を引いて自分で調べる傾向があった。画数への関心も高く、類推して漢字を読もうとする。2年たった現在、5年生の時点で、まだ日本語としての漢字の書きは学年相当とは言えないが、最近の教室では日本語の本を自主的に飽くことなく読み進めている。語彙に対する理解も進み、教科語彙に対する関心も高まってきている。

2.1.2 非漢字圏の小学生(小3~小6)

3年生の夏に入室し、会話には不自由はないが、単調なドリルの書き込みは好きではなく、間違えても直さない傾向があった。漢字

学習をゲームのように仕向けると意欲が上がる。また、友達とのグループ学習では勉強に対する意欲を見せるので、助け合って学ぶ姿勢で漢字を学習する方向性で進める。3年経った現在、6年生の時点で、会話は日本人の子どもと大差なくできるが、漢字の理解は学年相当とは言えない。年2回の「漢字王決定戦」には欠かさず参加し、徐々にではあるがわかった時の楽しさを体感しているように見受けられる。漢字の苦手意識の払拭までには至っていないが、読みはかなり上達し、学校での漢字テストも成績が上昇している。

2.2 毎週の教室での目標達成度

中高生は人前で間違えることに抵抗感もあるので、個人で答える場合には配慮して漢字嫌いにならないように工夫し問題を構成している。そのため「できた」という達成感は見受けられるように見受けられる。また、小学生は、覚えるための単調な練習の中にも、漢字の面白さがあることへの気づきは少しずつではあるが進んできている。そのため、毎週の漢字学習に弾みがついたと思われる。とはいえ、年2回の学習会だけではなく、日々の漢字学習を子どもたち自身が自律して進められるようになるには、一層の個別指導が必要である。

3. 今後の課題

年二回の教室活動で得たやる気や気づきを日々の学習に、どうつなげるかが今後の課題である。「楽しい」だったり「わかる」という達成感を、一時的な刺激にとどめず、日々の学習に結び付け、本人が自律的に学習できるよう導きたい。知識の獲得には自律学習は必須であるから、地球っ子教室にいる間に、気づけるよう働きかけたい。単調な学習ではなく、あの手この手の刺激が学びの姿勢につながっていくと信じて、飽きずにやっていく。

付記 共同研究者

- 一之瀬 快朗 (認定NPO法人地球学校)
- 影嶋 知香子 (横浜デザイン学院)